

医学生物学電子顕微鏡技術学会
投稿規定 (2006年9月改定)

1. 論文内容

医学生物学電子顕微鏡技術学会誌に掲載される論文は、電子顕微鏡に関連した技術およびそれを利用した研究に限る。電子顕微鏡以外の顕微鏡を用いた形態学的研究については編集委員会がその掲載の採否を決定する。

2. 論文の種類と制限枚数

論文の種類は総説 (review)、原著 (original) および短報 (note) の3つである。論文で記述されている内容についてはそれがたとえ古い電子顕微鏡技術であっても、現在の電子顕微鏡従事者に役に立ち、なおかつオリジナリティーが加味されていると編集委員会が判断すれば、これらを掲載する。総説、原著および短報は、それぞれ刷り上がり8頁、6頁、2頁までとする。この頁数を超えた場合、規定の掲載料に加えて超過分を支払わなければならない(掲載料については後述)。

3. 投稿資格と種別

本誌への論文の投稿は原則として本会正会員に限るが、非会員からの投稿を受け付ける事がある。著者が複数の場合、筆頭著者が正会員であることとする。但し、学生が筆頭著者である場合には、corresponding author が正会員であれば投稿できる。非会員が投稿する場合には別途掲載料を設定する。

本誌への投稿の種類は、本学会正会員が自ら投稿する一般投稿、学術講演会会長や各種常設委員会からの推薦により本学会正会員が投稿する推薦投稿、および各種常設委員会の推薦を受けて編集委員会からの依頼により投稿する依頼投稿の3種類に分けられる。編集委員会からの依頼による依頼投稿は、正会員に限らない。

4. 投稿原稿の採否

一般投稿および推薦投稿の場合、複数の査読者の意見を基に投稿論文の採否を編集委員会が決定する。編集委員会からの依頼による依頼投稿の場合にも、著者は編集委員会から原稿の修正を求められる事がある。

学術講演会および電子顕微鏡シンポジウムにおける講演内容は、後抄録として会誌に掲載される。後抄録は原則として査読を行わずに掲載するが、様式統一の都合上、修正を求める事がある。後抄録の投稿規定は別途定める。

5. 著作権

掲載論文の著作権は医学生物学電子顕微鏡技術学会に帰属し、著者が他に全文または一部を使用する場合は本学会の承認を必要とする。

6. 投稿原稿の提出

投稿原稿は3部、図・表3部、および電子ファイル1部を下記の編集委員会あてに送る。電子ファイルはWORD文書 (.doc)、リッチテキスト形式 (.rtf)、あるいはテキスト形式 (.txt) に限り、CDに記録したものを提出する。CDには、表題、著者名および使用ソフトを明記する。提出された原稿、図・表、およびCDは返却しない。

投稿原稿は随時受け付けるが、締切日は会誌発行の2ヶ月前とする。

1号：1月31日締切、3月末日発行

2号：8月31日締切、10月末日発行

7. 著者負担金

総説 (刷り上り8頁)、原著 (刷り上り6頁) および短報 (刷り上り2頁) の会員による自主投稿および推薦投稿には、学会が求める一定の掲載料 (総説は40,000円、原著は30,000円、短報は10,000円) を支払わなければならない。非会員による投稿料は総説60,000円、原著45,000円、短報20,000円とする。ただし、編集委員会からの依頼投稿の場合は依頼頁数までの掲載料を無料とする。規定の頁数を超えた場合には超過頁1頁につき10,000円を著者負担とする。カラー印刷は依頼投稿であっても全額著者負担とする。総説、原著、短報の別刷は25部までは無償とする。それ以上の別刷を希望する場合、学会が提示する別刷代を支払わなければならない。

学術講演会の後抄録は刷り上がり1頁である。掲載料は無料とし、別刷は25部までは無償とする。それ以上の別刷を希望する場合、学会が提示する別刷代を支払わなければならない。

8. 投稿原稿の体裁

本誌に掲載される論文は和文あるいは英文のいずれかによって記述されなければならない。原稿作成上の取り決めを以下に記載する。

1) 和文原稿

- (1) 原稿はA4サイズの用紙に上下左右の周囲を25mm空け、ダブルスペースで片面に印字する。
- (2) 第1頁には、表題、全ての著者名、全ての著者の所属機関名とその所在地を和文と英文の両方で左揃えにして記述する。
- (3) 第2頁には約250単語の英文抄録を記述し、1行あけて5個以内の英語のキーワードを付記する。
- (4) 本文は、1) 緒言、2) 材料および方法、3) 結果、4) 考察、5) 謝辞、6) 文献 (別紙に記載する)、7) 図・表の説明 (別紙に記載する)、の項目順に記述する。これらの見出しは左揃えとする。また、項目間は1行ずつあける。本誌は1頁2カラムに印刷され、1カラム幅は8.4cmとなる。総説刷り上り8ページの本文総文字数は日本語全角文字で約20,644文字、原著論文刷り上り6ページは約15,028文字、短報刷り上り2ページは約3,700文字に相当する。

- (5) 1カラム幅 (8.4cm) の図・表の高さ1cmは52文字、1カラムを超える幅 (9.0から17.5cm) では2カラム扱いとなり、高さ1cmが104文字に相当するので、著者自身で文字数換算を行い、本文の規定総文字数内に収める。
- (6) 文献を引用する際には本文中に上付きの括弧付数字で文献番号を記述する。文献番号は引用順に付け、文献リストは次のように記述する。

① 雑誌の場合

文献番号) 著者名 (全員)、(年号)、論文題名、雑誌名 (略語)、巻数：開始頁-最終頁。

1) Sasaki, H., Matsui, C., Kiyosue, Y., Furuse, M., Tsukita, S.(2003). Dynamic behavior of paired claudin

strands within apposing plasma membranes. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA.* 100: 3971-3976.

2) 古賀博則、秋山典昭、月星隆雄 (1999). ペレニアルライグラス組織内の *Neotyphodium* エンドファイト菌糸の反射電子検出器での検出. 医・生電顕技術会誌. 12: 70-71.

② 単行本の場合

文献番号) 著者名 (全員). (年号). 論文題名. 本の名前 (編集者)、出版社、所在地、pp. 開始頁-最終頁。

1) Sasaki, H. (2003). Freeze-Fracture Analysis of Renal-Epithelial Tight Junctions. *Methods in Molecular Medicine* (Ed. Goligorsky, M.S.), Humana Press inc., Totowa NJ, pp.155-166.

2) 岩野 恵. (2006). 透過電顕 *in situ* ハイブリダイゼーション法. クロモソーム植物染色体研究の方法 (福井希一、向井康比己、谷口研至編)、養賢堂、東京、pp. 111-112.

(7) 単位は、km, m, cm, mm, μm , nm, kl, l, ml, μl , km^3 , m^3 , cm^3 , mm^3 , μm^3 , kg, g, mg, μg , ng, pg, km^2 , m^2 , cm^2 , mm^2 , μm^2 , M, mM, μM , N, %, g/l, mg/l, $\mu\text{g/l}$, ppm, ppb, $^{\circ}\text{C}$, xg, pH, 3H, Bq, Pa, year(s), month(s), week(s), day(s), hr, min, s を用いる。

(8) 学術用語はできるだけ日本語を用い、形態学用語は日本解剖学会解剖学用語 (丸善:1987) に準拠する。動植物名はヒトを含めてカタカナで記述する。ラテン語のイタリック表示は斜体あるいはアンダーラインを入れて区別する。

(9) 本文中の図・表の番号は、図1, 表1と記述する。図・表の裏には筆頭著者名、図・表番号および天地を明示し、顕微鏡写真にはスケールバーを入れる。1カラム幅の図・表の横幅は 8.4 cm とし、最大幅は2カラムで 17.5 cm である。縦の最大長は1頁を使用した場合 22 cm とする。

(10) 図・表について

他の論文や雑誌から引用する場合は、必ず原著者およびその出版社に転載許可を得たうえで出典を明記する。

2) 英文原稿

(1) 原稿は A4 サイズの用紙に上下左右を 25mm 空け、半角英文字、ダブルスペースで片面に印字する。

(2) 第1頁には、表題、全ての著者名、全ての著者の所属機関名とその所在地を和文と英文の両方で左揃えにして記述する。

(3) 第2頁には約 250 単語の英文抄録を記述し、1行あけて5個以内の英語のキーワードを付記する。なお、英

文論文には論文末に 400 文字以内の和文抄録を記述しなければならない。

(4) 本文は、1) Introduction、2) Materials and Methods、3) Results、4) Discussion、5) Acknowledgement、6) References (別紙に記載する)、7) Legends to

figures (別紙に記載する)、8) 和文抄録、の項目順に記述する。これらの見出しは左揃えとし、また、項目間は1行ずつあける。総説刷り上り8ページの本文総英字数で約 41,288 文字、原著論文刷り上り6ページは約 30,056 英字、短報刷り上り2ページは約 7,400 英字に相当する。

(5) 1カラム幅 (8.4 cm) の図・表の高さ 1 cm は 90 英字、1カラムを超える幅 (9.0 から17.5cm) では高さ 1 cm が180 英字に相当するので、著者自身で英字数換算を行い、本文の規定総英字数内に収める。

(6) 文献を引用する際には本文中に上付きの括弧付数字で文献番号を記載する。文献番号は引用順に付け、文献リストは次のように記載する。

① 雑誌の場合

文献番号) 著者名 (全員). (年号). 論文題名. 雑誌名 (略語) 巻数、開始頁-最終頁。

1) Sasaki, H., Matsui, C., Kiyosue, Y., Furuse, M., Tsukita, S. (2003). Dynamic behavior of paired claudin strands within apposing plasma membranes. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA.* 100:3971-3976.

② 単行本の場合

文献番号) 著者名 (全員). (年号). 論文題名. 本の名前 (編集者)、出版社、所在地、pp. 開始頁-最終頁。

1) Sasaki, H. (2003). Freeze-Fracture Analysis of Renal-Epithelial Tight Junctions. *Methods in Molecular Medicine* (Ed. Goligorsky, M.S.), Humana Press inc., Totowa NJ, pp.155-166.

(7) 単位は、km, m, cm, mm, μm , nm, kl, l, ml, μl , km^3 , m^3 , cm^3 , mm^3 , μm^3 , kg, g, mg, μg , ng, pg, km^2 , m^2 , cm^2 , mm^2 , μm^2 , M, mM, μM , N, %, g/l, mg/l, $\mu\text{g/l}$, ppm, ppb, $^{\circ}\text{C}$, xg, pH, 3H, Bq, Pa, year(s), month(s), week(s), day(s), hr, min, s を用いる。

(8) 形態学用語は日本解剖学会解剖学用語 (丸善:1987) に準拠する。ラテン語はイタリック表示にするので、原稿には斜体あるいはアンダーラインを入れて区別しておく。

(9) 本文中の図・表の番号は、Fig. 1, Table 1と記述する。図・表の裏には筆頭著者名、図・表番号および天地を明示し、顕微鏡写真にはスケールバーを入れる。1カラム幅の図・表の横幅は 8.4 cm とし、最大幅は2カラムで 17.5cm である。縦の最大長は1頁を使用した場合 22 cm とする。

(10) 図・表について

他の論文や雑誌から引用する場合は、必ず原著者およびその出版社に転載許可を得たうえで出典を明記する。